



28 シウンのお嫁入り②

2014.3 執筆

シウンを運ぶための箱が設置され、いよいよ搬出に向けて本格的な準備が始まりました。

搬出の準備はいろいろありますが、シウンが箱に落ち着いて入ることは何よりも大切な事です。第一、箱に入らなければ輸送することもできません。しかも、シウン自ら箱に入らなければ押し込む訳にも、引っ張り込む訳にもいきませんから、「箱の中は怖い」と思わせてはいけないのです。

と、いうことで「箱の中は怖くない」というトレーニングを次の日から始めました。グラウンドに設置してある箱は常に扉が開放してあります。いつでも入ってもいいよ、ということです。そして、そのためにも中でエサが食べられるように箱の中に毎日エサを付けました。それ以外にもターゲットを使って誘導するトレーニングも行いました。

シウンはとても優秀なキリンですので、あっという間にそれらをこなしました。さらにその上を行く「箱に入ったまま扉を閉め、その中で落ち着いて過ごす」という高度なトレーニングも軽々とクリアしました。

箱に対する訓練は完璧です！しかし、問題は天候……。シウンは母親のミライとは逆で雨が嫌い（ここはキヨミズ似ですね）。箱にはまだ天井が取り付けられていませんから、雨が降ったらシウンはすぐに雨のかからない所へ行き、じっとしてしまふのです。そうなったら箱にも入ってくれないでしょう。かといって天気をコントロールすることもできず、そこは願うのみです。

箱入れ以外の準備もちろんあります。生まれてから今まで過ごしてきた所とは違う場所で生活するのですから、移動先の浜松市動物園とのやりとりも大切な準備のひとつです。

シウンの今まで食べていた物や量、これまでの出来ごとや性格などはメールや口頭でもお伝えできます。それらをした上で、シウンが継続してきたことを出来るだけ続けてほしい思いも伝えたところ、移動先の熱心なキリン担当者は、当園で3ヶ月ことに行っている体重測定の様子を実際に見に来て下さいました。

京都市動物園ではキリンの体重測定を10年以上前から定期的に行っています。これは日本の動物園では京都だけです。しかも、4頭のコドモのキリンは生後1ヶ月から測定を行ってきました。その体重のデータは蓄積されています。私には、移動先でもぜひ行って欲しいという願いが強くありました。それに同意してくださり、見学に来て下さったのです。機械の準備もあるのですぐにはいきませんが、将来、多くの園でキリンも定期的に体重測定を実施するようになるといいなあと思います（動物園の動物たちは体重を計測して管理するのが基本となっています）。

そして、シウンが継続していることがまだあります。1歳半のときから2日に1度糞を採り、ホルモンの検査をするのです。これは岐阜大学と共同で行っている研究で、シウンの場合はまだ発情が来ていないので、発情が来る（春機発動といいます）のを確認するためです。そしてその後も発情のサイクルや妊娠・出産などを飼育現場の観察とホルモン値とを照らし合わせ、研究や飼育管理に応用するためです。それも、移動先で継続して下さるとのことで本当にありがとうございました。

あとひとつ、シウンが行っていたトレーニング。それも移動先での継続を前提に、当園のトレーナーと引き継ぎをしました。

これらの引き継ぎは今回初めてのことです。このようなことがこれからも当たり前のように行われていくことを願います。

事務的な引き継ぎ準備、現場でのシウンの箱入れ準備も済み、いよいよ移動の日を待つのみです。

2004年3月3日、10時より箱入れ作業をスタートし、クレーンでトラックに積み、固定をし、11時に京都を出発、3～4時間かけて浜松に到着という予定です。

私たちは一週間、いや、それよりも前から天気のことばかりが気になっていました。シミュレーションはすでに済ませています。その通りに行えばキリンもヒトも安全に作業が行えるはず。しかし、天気は……？

3月3日当日、予報では雨。しかし、朝はまだ降っていません。キリンの担当者は2人とも晴れ女!!ここで威力を発揮しなければどこで発揮するといわんばかりの念力で、晴れとはいかなくても雨は降らせない!せめて降るなら京都を出発してからにして!強く願った甲斐あって作業中雨は降りませんでした。

予定通り、10時から作業がスタート。いつもならシウンが箱に入って扉を閉めてもその後またグラウンドに開放しますが、今日は扉を閉めたらもうシウンはこの地に戻ってくることはないのです。悲しく、寂しい思いはその時にはあ

りません。何故なら、私たちは浜松にシウンが無傷で元気に到着するのが目標なのです。その一心で集中して作業を行います。

長く感じましたが、予定通り何の問題や事故、ケガもなく、搬出作業を 11 時過ぎに終え、シウンが入った箱を載せたトラックは園を出て行きました。

ホッとしたのも束の間、まだ無事に着くまでは安心できません。そんな私たちのもとに連絡が入ったのは午後 3 時過ぎ、浜松市動物園から無事にシウンが到着し、すんなりとキリン舎に入り収容したとのこと。さすがシーちゃん、到着しても、なかなか箱から出ないキリンもいるのです。シウンを運んでくださった輸送業者の方からも、キリンを無傷で運べたのは初めてだ、とてもいい子だったので問題なく運べたとお褒めの言葉をいただきました。

これで本当にホッとできました。

シウンがいなくなって、私がやっと寂しく感じたのはキリンたちを収容した時。今朝まで 4 頭いたキリン舎内に夕方帰ってきたのはキヨミズ・ミライ・ウリュウの 3 頭。とても少なく感じました。「シーちゃん、本当に行っちゃったんだなあ」。

お嫁に行って間もなく、3 歳になったシウン。これからも百点満点のキリンでいてください。そして、ミライのように元気なアカチャンを産んで、育ててくださいね。



多くのみなさんからの
寄せ書き

